

Spring & Autumn 2025

名大理学同窓会報

理学部 E 館

1967 年に建築された理学部 E 館は、2009 年の耐震工事を経て建物全体が新しくなりました。現在はおもに生命理学、地球惑星科学の講義室・研究室のほか、各事務室や装置開発室などが入っています。左手前は 2011 年に植樹された「2008 年ノーベル物理学賞受賞記念」のニュートンのリンゴの木です。(2025 年 4 月 26 日撮影)

NO.38

理学同窓会報

Spring & Autumn 2025

NO.38

CONTENTS

1. 理学研究から広がる知と絆の可能性	田中 健太郎（理学研究科長・理学部長）	1
2. 卒業生・在校生からのメッセージ		2
プラネタリウムと天文教育、そして研究	河野 樹人（名古屋市科学館、素粒子宇宙物理学専攻、 博士前期課程 2017 年、後期課程 2020 年修了）	
あれからも、これからも	川村 泰喜（古河電気工業株式会社、物質理学専攻 物理系、 博士前期課程 2021 年、後期課程 2024 年修了）	
奏でる青春	竹内 みなみ（数理学科 4 年）	
Pellicule	鈴木 和人（化学科 2016 年卒業、博士前期課程 2018 年、 後期課程 2021 年修了）	
知りたい世界がまだまだある	河原 弘和（独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）、 地球惑星科学科 2014 年卒業、博士前期 2016 年、後期 2023 年修了）	
知識より大きな武器	寺島 彰（食品メーカー勤務 品質保証職、生命理学科 2015 年卒業、 博士前期課程 2017 年修了）	
3. クラス会		4
4. トピックス		5
5. 寄付をいただいた方々		9
6. 退職者からのメッセージ		10
7. 新任紹介		12
8. 事務局からの連絡とお願い		15
9. scope		15
10. 楽しく、厳しく、ハードに勉強する学生諸君		16
11. 会計報告		17
12. 編集後記		17





田中 健太郎
理学研究科長・理学部長

1. 理学研究から広がる知と絆の可能性

令和7年4月より理学研究科長・理学部長を務めております田中健太郎と申します。平成19年に名古屋大学の化学教室へ着任して以来、18年間、理学部、理学研究科の一員として研究・教育に携わってまいりました。研究科長になり、これまで以上に理学部の5学科との関わりが深まり、それぞれの学科、学問領域の間での文化の違いや共通点をあらためて感じています。

名古屋大学の理学部の構成は全ての分野をカバーしているものの、比較的コンパクトにまとまっているため、専門分野を超えた交流や学術の連携がしやすい環境にあります。そのためもあり、理学部を母体としたトランスフォーマティブ生命分子研究所 (ITbM) や素粒子宇宙起源研究所 (KMI) など、名古屋大学の学術研究を牽引する組織も生まれてきました。一方で、他学科、他領域でどのような研究者がいて、どのような研究が行われているのかを知る機会はまだ限られています。しかし、この状況は裏を返せば、新たな学術の創成につながる大きな可能性が眠っているということでもあります。分野の垣根を越えて互いの研究を知り合い、刺激を与え合うことで、思いがけない発想や新しい学びの芽が育つはずで、同様に学内にとどまらず、名古屋大学を巣立っていった同窓生の皆さんとの連携にも大きな期待を感じています。

近年、日本の学術は世界の中で存在感を失いつつあると指摘されています。その大きな要因の一つに、失敗を恐れず0から1を生み出すための自由闊達な学術活動を支える基盤的研究経費が削減されてきたことが挙げられます。理学研究が担う学問は、まさに0から1を生み出す営みそのものです。応用や短期的成果を求める声が高まる中でも、基礎研究を継続し、未知への扉を開くことこそが、将来の科学・技術、そして社会の可能性を大きく広げます。

理学部および理学系の研究科はこの逆境の中でも、学術を前進させるための努力を続けています。異なる分野の知を結びつけ、若手研究者が挑戦できる環境を守り、世界に新しい価値を示す研究を生み出す。そのためには、学内外のつながりと理解が不可欠です。同窓生の皆さまにおかれましても、在学中に培った探究心や論理的思考は、社会のあらゆる場面で力を発揮していることと思います。本同窓会が、在学生や教職員と同窓生をつなぎ、知と経験を重ね合わせることで新たな挑戦を生む契機となれば幸いです。

最後に、日頃から理学部および理学系の研究科を支えてくださっている皆さまに深く感謝申し上げます。皆さまのご健勝とさらなるご活躍をお祈りしております。

2. 卒業生・在校生からのメッセージ

プラネタリウムと天文教育、そして研究

私は博士後期課程修了後に名古屋市科学館の天文学芸員として就職し、日々、プラネタリウムの生解説と番組制作を中心とする天文教育普及に従事しています。学生時代は電波天文学を専攻し、電波望遠鏡を使った天の川銀河における



河野 樹人
名古屋市科学館
素粒子宇宙物理学専攻
博士前期課程 2017 年、
後期課程 2020 年修了

星間ガスの広域観測を行っていました。科学館のプラネタリウムは、専門学芸員による生解説とオリジナル番組の制作が特徴です。投影テーマは、ほぼ毎月変わり幅広い世代に対して、日々の星空

から天文学の最前線までをわかりやすくお伝えしています。学生時代は研究対象として天文学の狭い範囲を深掘りしていましたが、現在は物理学や宇宙開発も含めた幅広い知識が必要なため、勉強の毎日です。就職してからさらに自分の視野が広がったと実感しています。これも大学院時代に自分の専門分野の研究に没頭した経験があったからこそだと思っています。名古屋大学とは公開セミナーや坂田・早川記念レクチャーなどの共催事業で現在もお世話になっています。ここ数年は科学館で開催する 1 年生向け基礎セミナーの授業 1 回分も担当しており、卒業後も繋がりを意識するこの頃です。私自身は現在も研究室の先生にお世話になり、アカデミックな研究活動も継続中です。日々の仕事との両立は大変で、学生時代に思い描いていたものとは少し違ったキャリアを歩んでいます。自身がロールモデルになるべく奮闘しています。皆さんが科学館にお越しの際はお声がけ頂けると嬉しいです。

あれからも、これから

「そろそろ同窓会報の依頼来るだろうなあ～」と思っていました。的中しました。こんにちは、S 研 OB の川村泰喜と言います。

私は外部受験で 2019 年に岐阜大学から名大の大学院に進学し、物性理論の研究を始めました。入りたくて入ったラボだったので、2 年で終わるのが寂しくて D 進しました。幸い、論文執筆も学会発表も学振研究員も、やりたかったことは全部やれて、無事に博士の学位を取得できました。指導教員や先輩・後輩にも恵まれ、ちゃんと就職もできたのは運が



川村 泰喜
古河電気工業株式会社
物質理学専攻 物理系
博士前期 2021 年、後期 2024 年修了

良かったと言う他ありません。ただ、後悔や反省が無いと言えば、彼のキャラクターの如く鼻が伸び

ることでしょう。D3 から新しいアプローチで研究した結果、論文投稿がギリギリになったことは今思い出しても肝が冷えます。あの当時、私と小林先生の右腹部はサーモグラフィーに青く映っていたといいます。

現在はシリコンフォトニクスという情報通信技術の分野に携わっています。つまり私の主戦場はシュレディンガー方程式からマクスウェル方程式・波動方程式になったということです。もう松原グリーン関数を見ることは無くなったし、酷使したパソコンは寮のご飯を予約する機械になりました。SOI はスピン軌道相互作用ではなく silicon on insulator です。すっかり変わってしまったけど、コードを書いたり定式化したり、あの 5 年で得たものは今でも私を助けてくれます。これからも、ずっと助けてくれるんだと思います。変わらず。

奏でる青春

私は名古屋大学交響楽団に所属し、コントラバスを演奏しています。2023 年度サマーコンサートおよび 2024 年冬の第 127 回定期演奏会において、主席奏者を務めさせていただきました。選出によるものではなく名ばかりの役職ではありましたが、それでも自らの責任を自覚し全力で役割を果たしたと思います。

当団は週 4 日の練習に加え、年 4 回の合宿を実施していて、活動維持費も学生には負担の大きいものです。また、主席奏者の務めとして、練習期間の開始前に曲目や練習方針を考え、期間中は自身の演奏力を高めながらパート内に還元していくことが求められます。私は周りより経験や知識が乏しかったため、楽典や曲の背景を学びより良い奏法や運指を研究



竹内 みなみ
数理学科 4 年

する日々を送りました。特に第 127 回の曲目は難解で、本番直前まで思索と試行錯誤を繰り返す不安から眠れぬ夜が続きました。

それでも本番を終えたときの達成感と充実感は格別で、次の演奏会が待ち遠しく感じられるほどでした。音楽と真剣に向き合い仲間と切磋琢磨するこの時間こそが私にとって何よりの生き甲斐です。

現在（6 月）は活動も一段落し、大学院入試に向けて勉学に励んでいます。時折団員と顔を合わせるたびにかけがえのない仲間に出会えたことを実感し、名古屋大学交響楽団に所属できたことを心から幸せに思います。

Pellicule

2015年に研究室に配属されたあの日から、早10年が経過しました。2021年の3月に卒業するまで、酵素を「デコイ分子」と呼ばれる化合物で騙し、化学反応を制御する研究に従事しておりました。その後は化学メーカーに就職、素材開発を担当する部署で研鑽の日々です。



鈴木 和人
化学科 2016 年卒業、
博士前期課程 2018 年、
後期課程 2021 年修了

私の思う研究室に在籍時の大きなターニングポイントは、計算化学とのふれあいでした。修士1年生の夏、共同研究先への訪問に同行する機会を突如頂き、分子動力学シミュレーションの手ほどきをいただきました。せっかくの機会にお

腹を壊して、ホテルのトイレで神様に祈っていたことは秘密です。その後、研究室にもパソコンを導入していただき、エラーと闘いながら、時には夜が明けるまで勉強したことはいい思い出です。この経験を通じて、素人に毛が生えた程度ではあるものの、様々な化学計算の手法を学んだり、時には自分で実行できるようにもなりました。

就職後、これらのなけなしの知識も手放すことになるかと思いましたが、素材開発にも計算化学やマテリアルズインフォマティクスの手法が取り入れられるようになり、学んだことが活かしています。ときには専門家のような扱いを周囲から受けることさえあり、恐れ多いです。私は、コロナ禍で5本指での打ち方を練習するまで、人差し指のみでタイピングしていたほどパソコンど素人です。在学時は酵素を騙していましたが、今は人間を騙している気分です。

知りたい世界がまだまだある

私が働く JOGMEC は、天然資源を日本へ安定供給することを目的としています。大学で地質学を専攻していた私に、研究室の OG の方が「私が働く JOGMEC に入れば世界中いろいろな国に行ける」と誘ってくださったことがきっかけで入構することとなりました。以来、銅やリチウムといった金属資源を確保するため、地質技師として金属鉱床探査等を担当しています。探査では、調査地に分布する地層や岩石などを調べ、将来鉱山開発が可能な金属鉱床が存在するか検討します。私はこれまで計19か国で探査等を行ってきました。その中で最も印象深いのはミャンマーでの調査です。調査地は電気・水道・ガスのない僻地で、そこで約1か月間調査を行いました。気温は連日40℃近く、シャワーはないので井戸水を被って汗を流しました。夜寝て



河原 弘和
独立行政法人エネルギー・金属
鉱物資源機構 (JOGMEC)
地球惑星科学科 2014 年卒業
博士前期 2016 年、後期 2023 年修了
写真：坑道壁面の濃緑色部は
トルマリン濃集部@スウェーデン

成功確率が「千三つ」とも言われる探査において、なぜ過酷な環境に耐えられるのかと聞かれることがあります。一言で答えると、それはやはり好奇心かなと思います。ミャンマーの奥地はどんなところか、電気のない生活で自分がどうなるのか興味が湧きます。現在、アクセスが容易な金属鉱床はほぼ見つけ尽くされたとされ、調査地は僻地がほとんどとなります。これからも好奇心を持ち続けてためらわず奥地に飛び込み、地質技師としての技術を磨いて未発見の金属鉱床を見つけたいと思います。

いたら何か顔の上を這う感触で飛び起きて、見ると吊っていた蚊帳を食い破って入ってきたカミキリムシだったこともありました。

知識より大きな武器

大学を卒業し、「生物っぽい」というざっくりとした理由で食品メーカーに入社した私。当時は、研究室で培った知識がそのまま活かせるに違いないと漠然と考えていました。最初に配属された食品開発の部署では、確かに生物系の知識が役立つ場面もありましたが、日々の業務と自分の本当にやりたいこととの間に、どこかズレを感じていました。しかし、いくつかの部署を経験する中で、大学で培った「ある力」が、社会に出てから想像以上に活かせる仕事と出会うことになります。

それが、食品の安全を守る品質保証という仕事でした。この仕事は、単に知識を当てはめるだけでなく、論理的な思考力と探求心が何よりも求められます。例えば、製品に問題が発生した際、それがどこで、どのようにして起きたのかを突き止める必要があります。この時、大学で実験レポートに頭を悩ませながら



寺島 彰
食品メーカー勤務 品質保証職
生命理学科 2015 年卒業、
博士前期課程 2017 年修了

身につけた仮説構築力や、緻密なデータ分析から真の原因を探り当てる問題解決能力が、まさに生きてくるのです。まるで、研究室でミクロな現象を追究していた時のように、目の前の事

象から真実を導き出す「探偵」のような面白さを感じています。

今や、品質保証こそが私の天職だと確信し、日々の業務に邁進しています。大学で学んだ専門知識はもちろんのこと、それ以上に、論理的に物事を考え、粘り強く課題に取り組む姿勢こそが、今の私の大きな武器となっています。あの頃の学びが、形を変えて今の自分を支えていると実感する日々です。

3. クラス会

地球惑星科学科同窓生の集まりを東京で開催しました



2025 年 6 月 7 日 (土)、東京の大手町にあるレストランにて、関東近郊在住の理学部地球惑星科学科および環境学研究科地球環境科学専攻の関係者(卒業生、元・現教員)を対象にした集まりが開催されました。卒業生・修了生の多くが関東地方に就職する中、名古屋で 4 年に 1 回開催する同窓会(名球会)になかなか参加しにくい状況を考慮して、関東在住の方々を対象にした集まりを企画しました。

関東で集まるという初めての試みでしたが、幅広い年齢層(20-80 代)から計 36 人の方々にご参加いただきました。中には卒業以来という再会もあり、あっという間の 2 時間でした。名古屋大学からは竹内誠先生が東京までお越し下さり、1949 年

以降の地球惑星科学科教室の沿革や、参加者の若い頃の写真、最近の東山キャンパスの写真などを店内のモニターに表示してご紹介くださいました。また、1993 年まで名古屋大学教授をされ、今も JAMSTEC で研究を続けていらっしゃる深尾良夫先生にもご参加いただき、名大在職当時のお話をいただきました。

今回の集まりは、山岡が 2024 年 3 月に名大を定年退職して東京で働いていることから、JAMSTEC の利根川さんと辻さんに企画をお願いし、盛会のうちに終了することができました。今回は地球物理系を中心とした集まりでしたが、今後も関東在住の関係者を対象としたこのような集まりができると良いと思います。(文責：山岡耕春)

1984 年・1983 年学部入学者ミニ同窓会



ミニ同窓会の記念写真(本山の居酒屋にて)

2025 年 10 月 18 日 (土) のホームカミングディの機会に、1984 年に理学部に入学した仲間が集まりました。ホームカミングディ講演会で講演された池上氏を含む 1 学年上の方々も交え、本山近くの居酒屋でのミニ同窓会となりました。

卒業以来という仲間もありましたが、すぐにお互いを認識することができました。まずは、ひとしきり学生当時の思い出や、卒業後の生活での苦労(?)などを語り合いました。さらに、1984 年入学の現役組がちょうど還暦ということもあり、今後の抱負(?)の話でも盛り上がりました。最後は、近いうちの再会を約して閉会となりました。(原田正康)

旧松浦グループ(分子第 3 講座)の同窓会



理学南館 坂田・平田ホール前にて

2025 年 10 月 18 日 (土) のホームカミングディ理学同窓会企画にて、2008 年生命理学科卒(2013 年修了)の小林純也さんに近況をご報告いただくのに合わせて、小林さんが所属された分子第 3 講座・松浦グループのミニ同窓会が行われました。平野秀美さんのお声がけにより、2023 年に改修した理学部 G 館の 309 号室(現在は小会議室)に集まって、平野さんお手製のケーキ(とても美味しい!)をいただきました。当時となりの研究室だった筆者と飛び入りの別研究室の同級生を合わせた、参加者 5 名のこじんまりとした会でしたが、当時の思い出から現在の状況(子育てや会社の仕事のこと)まで、10 数年ぶりの再会に話題は尽きず、あっという間に時間が過ぎました。参加者の皆さんも歳を重ねて生活が落ち着き、再会にはちょうど良い時期だったようです。

(小嶋誠司)

化学科の大学院生が大活躍：日本化学会春季年会で3名が学生講演賞を受賞！

今年3月に行われた日本化学会春季年会にて、優れた口頭発表を行った学生に贈られる学生講演賞を博士後期課程2年の望月直哉さん、森山拓海さん、大蔵竜盛さんの3名が受賞されました。以下に受賞のコメントをご紹介します。

(望月さん) 私は現在、人工核酸 PNA を用いた 2 本鎖 DNA 認識技術の改良に取り組んでいます。この度の受賞は、荘司長三教授をはじめ研究室の皆様のご指導とご支援の賜物です。今後は本手法の生体応用を目指し、より一層研究に邁進いたします。

(森山さん) 従来の性能を凌駕する電極触媒の実現のため、白金 - 希土類合金ナノ粒子の精密合成法と触媒特性評価を行ってきました。今後は、新たな金属を添加した多機能化や、非白金 - 希土類合金の調製法開拓に挑戦したいと考えています。

(大蔵さん) 受賞対象となった研究内容は、安価なニッケル触媒で有機硫黄化合物の炭素 - 硫黄結合を切断し、新たな炭素 -



受賞した(左から)森山さん、望月さん、大蔵さん 賞状を手に記念撮影
炭素結合の構築を可能にするクロスカップリング反応です。今後硫黄の特性を活用し、革新的な分子変換技術の開発を目指したいと思っています。

今後益々のご活躍を期待しています。この度は本当におめでとうございます！

第 21 回 坂田・早川記念レクチャーの開催 2024 年 11 月 30 日 (土)



名古屋科学館 サイエンスホール

坂田・早川記念レクチャーは、坂田昌一・早川幸男両教授の業績をたたえ、21 世紀を担う研究者の発掘および育成を目的として、平成 14 年から開催されています。

昨年末に開催された第 21 回では、超弦理論の専門家である大栗博司先生(カリフォルニア工科大学フレッド・カブリ冠教授・理論物理学研究所所長、東京大学特別教授)に講演をいただきました。より深い基本法則へと統一する歩みであった

過去 400 年の物理学の歴史は、現在その最終局面を迎え、量子力学と一般相対性理論の統一が研究されている、そういった基本法則探究の最先端の現状と課題を話していただきました。大栗先生の人気は高く、抽選に選ばれた方が見込みよりも多く来場され、座席が足りず、スタッフの学生には仮設の椅子に座ってもらうほどでした。ご参加いただいた多くの方からアンケートへのご回答をいただき、主催者として改めて良い講演会を開催できたことを実感し、感慨深い思いでした。(久野 純治)



寺崎 理学研究科長(左)と大栗先生(右)

2025 年度(第 78 回)物理学教室憲章記念日スポーツ大会

今年も数多くの研究室が参加した大会となりました。各種目優勝チームからのコメントをご紹介します。

ソフトボール優勝(C 研) C 研ソフトボール部は市来 GM- 林監督体制の元、'23 年優勝、'24 準優勝と結果を出し続け、3 年目の '25 年は野球経験者 8 人の圧倒的戦力で優勝いたしました。3 年間楽しかったです。バドミントン優勝(N 研) 優勝できてとてもうれしいです！本当に未経験かどうか疑わしいほどのセンスを持ったペアのおかげだと思います笑。皆様、素晴らしい大会をありがとうございました！卓球優勝(Φ 研) この度、助教の奥平さんとダブルスを組み、優勝することができました。Φ 研から久しく優勝が出なかったそうなので、よい報告を研究室に持ち帰ることができて最高です。バレーボール優勝(Uxg 研) 一昨年、昨年に引き続き 3 連覇です！練習を重ね、チームの団結力はどの研究室にも負けません。体育会系研究室としてこの連覇を



各優勝トロフィーと賞状



今後も守っていききたいと思います。フットサル優勝(Ta 研) この度は、多くのチームが参加したフットサルにおいて優勝できたことを大変嬉しく思っています。優勝の原動力は、なんといっても若き学部 4 年生の力です。来年もスポーツに自信のある学生の Ta 研への入部をお待ちしております。駅伝優勝(Uxg 研) 去年 2 位の悔しさを晴らすべく「U 研陸上部」を立ち上げ、練習を続けてきました。さらに今年は Uxg 研だけでなんと「3 チーム」参加！継続した練習と層の厚さが大差をつけての優勝に繋がりました。来年の優勝もいただきます。

4. トピックス

「研究者って、大学で何しているの？」

このような質問をされたことはありませんか？ 私たちにとって当たり前の風景も、馴染みのない人からすると想像以上に大学というものはブラックボックスです。「世界に名だたる名古屋大学、きっと三度の飯より研究、研究、そして研究…、なのかな？」このように思っている方も少なくないでしょう。

ですが、研究者にとってもランチは大切。おやつがなければ元気は出ません。時に研究室にこもることがあっても、屋下がりの何気ない雑談に大発見の芽を見出すことも少なくありません。

人は、親しみや共感を持ってこそ相手をちゃんと見ようとするもの。研究成果が求められるのはもちろんですが、何気ない日常を伝えることが、大学を認めてもらう大切な一手ではないでしょうか。

SNS、はじめました。研究者だけでなく、大学を支える事務職員や学生の日常も発信しています。これを機に、懐かしい理学部の今を、そっと覗いてみませんか？そして、周りの皆さまにもぜひご紹介ください。(文・綾塚達郎)



名古屋大学理学部公式 X アカウント：
URL : https://x.com/NU_GS_Science



物理学教室学生教育委員会 活動報告

物理学教室学生教育委員会は、現役の学生によって構成された物理学教室公認の学生団体です。学科分属に関する相談会や授業アンケートの実施、4年次の研究室配属の運営などを行い、学生の立場からの情報発信と教育環境の向上に取り組んでいます。

日常的な活動はチームごとにオンラインで行うことが多いですが、月に1回の全体会議では、顔を合わせて企画方針の検討や進捗確認を行っています。議論の際には、目的や背景にある課題を共有し、活動全体に一貫性を持たせることを大切にしています。また、1年生や高校生を対象とした物理学科の紹介では、実際の体験を交えながら、物理学の面白さや学科の魅力、学生生活の様子などを伝え、リアリティのある情報発信を行なっています。



全体会議の様子

近年は、学生間の縦のつながりを生み出す新たな企画や、活動全体のワークフロー改善にも取り組んでいます。今後も学生の視点を生かし、学びや交流の場を広げながら、物理学教室のさらなる発展に貢献してまいります。

博物館 第42回企画展「体験！第三春山号から広がる木曽馬の世界」を開催しました

名古屋大学博物館では、2025年10月28日（火）から2026年1月16日（金）まで、第42回企画展「体験！第三春山号から広がる木曽馬の世界」を開催しました。木曽馬は日本在来馬の一つで、地域の暮らしや文化と深く結びつきながら受け継がれてきました。本展では、同館が収蔵する最後の純血木曽馬「第三春山号」の全身骨格標本を中心に置き、木曽馬の歴史に学び、さらに現在・未来に向けて木曽馬を取り巻く自然や人々との関わりも紹介しました。

会場では、当骨格標本の迫力に加え、蹄模型の触察体験や発酵段階の異なる馬糞の匂い体験、馬市の音声記録など、五感を通じて学べる体験型コーナーを用意し、さらに、大学生スタッフとの連携のもと、高校生が主体となって進めてきた探究活動の成果も公開して、次世代による学びと継承の姿を



ご覧いただきました。

木曽馬の魅力とともに、大学博物館が拓く学びの可能性を、多くの方に体感いただける機会となりました。
(博物館・特任助教 梅村綾子)

第42回企画展「体験！第三春山号から広がる木曽馬の世界」のチラシ。イラストに木曽馬の写真を貼り合わせて作成しました。



開館時間 10:00～16:00 (最終入館は15:30)
開館日 火曜～土曜 (日曜・月曜・年末年始休み) 入場無料

※今後の企画については、ぜひ名古屋大学博物館のホームページをご覧ください。

上川内あづさ 教授が第 45 回「猿橋賞」を受賞 - 「昆虫脳における聴覚情報処理原理の解明」



上川内あづさ 教授

このたび、自然科学分野で優れた研究業績を挙げた女性科学者に贈られる本賞を受賞できたことを、心より光栄に思います。今回評価いただいた研究は、モデル動物ショウジョウバエの神経情報処理の仕組みを解明したものです。触角の「ジョンストン器官」で受け取った重力情報と聴覚情報は異なる脳部位に送られ、別々に処理されることを明らかにしました。これは、ヒトが耳で受け取る聴覚情報と平衡覚情報を異なる脳部位で情報処理する仕組みと似ており、動物種を超えた聴覚情報処理の原理の理解に貢献するものです。また、コンピュータ科学と神経科学の融合を進め、画像認識を応用した聴覚行動解析プログラムの開発に成功し、ショウジョウバエの精密な行動解

析を可能にしました。以上の研究を通じて、神経科学・生命科学の重要なテーマの1つである「聴覚情報処理システムの理解」に独創的な視点をもたらしたと評価されました。

ショウジョウバエで聴覚を研究するというアイデアを得たのは20年以上前ですが、信念を持って挑戦を続けてきました。このようなユニークな研究テーマが自然科学として高く評価されたことは、研究者として大きな励みです。現在は、これまでのショウジョウバエでの研究をさらに拡張して、蚊の聴覚の研究も始めています。今回の受賞を糧に、今後も生命科学の新しい地平を切り拓いていきたいと思っています。



猿橋賞 受賞記念講演会での集合写真(2025年7月2日)

第 21 回名古屋大学ホームカミングデイ

2025 年度「理学同窓会企画」- 総会 - 同窓生の近況報告 - 講演会 - 懇親会 -

2025 年 10 月 18 日（土）「第 21 回名古屋大学ホームカミングデイ」は、小雨が降る中、キャンパスでの企画をメインに、一部オンラインでもご参加いただける形で開催されました。

理学同窓会では『理学同窓会企画』として「総会」「同窓生の近況報告」「講演会」を、理学南館大講堂（坂田・平田ホール）にて行いました。プログラムのあとは、講堂前のネオレックスプレイスにて懇親会を開催しました。

「総会」では、理学同窓会会長の田中健太郎 理学研究科長から、『理学この一年』として理学部の現状についてお話があり、続いて原田正康 常任評議員から同窓会の活動報告がありました。



総会の様子



池上 充宏 氏

「講演会」では、物理学科卒業の池上 充宏 氏に『物理学的思考とビジネス』と題して、「学生時代と“物理的思考”の原点」「転機と略歴」「物理からビジネスへ私の歩み」としてお話しいただきました。講演後には、皆さまからの質問が続き、充実した講演会となりました。



小林 純也 氏



武邊 勝道 氏

「同窓生の近況報告」では、小林 純也氏から『これまでを振り返って』、武邊 勝道氏からは『島根県出雲市大社町出身・縁結び、松江高専』としてご講演いただきました。学生時代の研究内容から、現在のお仕事への繋がりについて詳しくお話いただき、在校生・卒業生の皆さんに力強いメッセージを送っていただきました。参加された在校生のみなさんは、社会で活躍する先輩方のお話に興味深く耳をかたむけていました。



田中健太郎 会長の乾杯ではじまった懇親会は、ご講演者の皆さまを囲み、楽しい交流のひと時となりました。この日に合わせてミニ同窓会



を開催された方々もお集まりいただき、久しぶりの再会に皆さん大いに盛り上がりました。在校生同志の新たな出会いもあり、賑やかな会となりました。

今年のホームカミングデイは理学部の企画が昨年よりもさらに増え、たくさんの皆さまにお越しいただくことができました。

*「同窓生の近況報告」は、10 月 31 日までアーカイブ配信をしました。



「地球のツボ、押しに行こう」大学院生主催 学外セミナー



神奈川県立生命の星・地球博物館

2025年9月2日から4日の2泊3日の日程で、大学院生主催の「学外セミナー」が開催されました。このセミナーは毎年、地球惑星科学に関連した施設や露頭などを見学し、学部生の方（特に1年生）に地球惑星科学の魅力を肌で感じてもらうことを目的とした企画です。バス1台をチャーターし、参加者全員で

様々な見学地を巡ります。今年度は富士・箱根エリアで「地球のツボ、押しに行こう」をテーマにし、白糸の滝、奇石博物館、大涌谷、神奈川県立生命の星・地球博物館、小田原城などを訪れました。博物館ではバックヤードツアーをしたり、大涌谷や小田原城では専門家の先生からの解説を聞くこともできました。また、宿泊先では引率教員による研究紹介セミナーがあったり、懇親会では大学院生の先輩から研究室での生活などを聞く機会もあったようで、参加者にとって充実したセミナーになったようです。何とこの大学院生主導のセミナーは40年以上も続いているそうです。大学院生にとってはバスのチャーター、宿の予約、昼食の手配など何かと大変なことも多いようですが、毎年参加者からは楽しかったという声が聞かれます。今後もこのセミナーを通じて、より多くの方に地球惑星科学の魅力を感じてもらえることを願っています。（瀧 佑衣）

日本数学会 2025 年度秋季総合分科会



日本数学会賞授賞式および総合講演が行われた豊田講堂



名古屋大学東山キャンパスを会場に2025年9月16日（火）～9月19日（金）の日程で、「日本数学会2025年度秋季総合分科会」が多元数理科学研究科との共催により開催されました。日本数学会では毎年春と秋の2回、様々な大学が持ち回りで会場校となり大会を開催しておりますが、これはいわゆる「秋の学会」にあたります。名古屋大学での前回の開催は2010年秋ですので、実に15年ぶりとなります。主会場となった全学



教育棟本館では様々な分科会講演が行われ、連日千人をこえる多くの参加者による熱気のこもった質疑応答が繰り広げられました。地下鉄名古屋大学駅からは、今年の7月に

オープンしたばかりのCommon Nexusを利用して会場へ向かう参加者も多くみられ、こちらもよいお披露目の機会となりました。大会2日目には、豊田講堂を会場として日本数学会賞授賞式および総合講演が執り行われ、また大会最終日翌日の9月20日（土）には、理学南館の坂田・平田ホールを会場として一般市民を対象とした市民講演会も開催されましたが、参加者からこれら優れた施設を称賛する声も聞こえてきました。運営に携わっていただいた皆様に感謝申し上げます。（杉本 充）

オープンキャンパス・体験研修を開催（生命理学科）



オープンキャンパス、生命理学科説明会（8月8日）

2025年8月8日、野依学術記念交流館にてオープンキャンパスの生命理学科説明会が行われ、高校生約240名が参加しました。全体説明では学科の概要に加え、学生による研究生活の紹介もあり、参加者の真剣な表情が印象的でした。その後、各研究室の研究内容を紹介するポスターセッションが行われ、参加者は自由に閲覧しながら教員や学生と交流しました。



希望者を対象とした研究室見学のラボツアーには133名が参加し、実際の研究現場を間近で見学する機会となりました。

また8月18日には、近隣

体験研修（8月18日）高校の生徒を対象とした体験研修が坂田・平田ホールおよび各研究室を会場に開催され、80名が参加しました。各自が興味のある研究室を午前・午後を選んで訪問し、最先端の研究に触れる実習や説明を通じて、研究への理解と関心を深めていました。参加者からは、研究内容の専門性や設備の充実ぶりに加え、研究者や学生との交流が印象に残ったとの声が寄せられました。これらの催しを通じて、一人でも多くの方に生命理学の魅力が伝わっていれば何よりです。（向井 康敬）

5. 寄付をしていただいた方々（2024 年 11 月 - 2025 年 11 月）

同窓生の皆さまへ

このたびは、理学同窓会へ、たくさんのご寄付をお送りいただき誠にありがとうございます。
温かいご支援を賜りました皆さま方に心より感謝申し上げます。

お寄せいただきました寄付金は、
理学同窓会の運営及び活動費として、大切に活用させていただきたいと存じます。
どうか今後とも、名古屋大学理学同窓会にご支援賜りますようお願い申し上げます。

※ Web 版ではご寄付いただいた方々のお名前を非掲載とさせていただきます。
なにとぞ、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

「名大理学進学サポーター」を募集しております

近年、名古屋大学理学部の教育研究を高校生に積極的にアピールして、優秀な学生を集めることの重要性が増しております。
ここで進路選択の鍵を握りますのが学校教員等からのアドバイスで、実際、名大理学同窓生から名古屋大学理学部を勧められ、
進学を決意したという事例が毎年のように見受けられます。

そこで理学部では、理学同窓生の皆さまから「名大理学進学サポーター」を募ることにしました。サポーターにご就任いただきますと、名古屋大学理学部の入学状況や教育内容、研究内容、卒業生の進路などの最新情報を、随時お送りします。この情報を高校生や中学生の進路アドバイスにお役立ていただくとともに、願わくば名古屋大学理学部への進学をお勧めいただきたい、というのが趣旨です。さらに、同窓生のお立場から、より魅力的な名大理学の実現に向けてご助言をいただきたいとも考えております。（2025 年 11 月現在、28 名の方にサポーター登録していただきました。）

このサポーターは、高校教員等に限定せず、「名大理学進学サポート」をお願いできる方とさせていただきます。あくまでボランティアでのご支援をお願いしたいと考えておりまして、報酬等はありませんし、もちろんノルマ等もございません。また任期もありませんが、毎年、ご支援いただけるかどうか、ご意思を確認させていただきます。

上記にご賛同いただき、「名大理学進学サポーター」就任を希望される同窓生は、登録必要事項を以下のメールアドレスまでお送りください。なお、審査等はありません。ご質問等はこちらのアドレスにお願い致します。

申し込みアドレス：support@dousou.sci.nagoya-u.ac.jp
登録必要事項：お名前（必須） ご職業（任意）

名古屋大学理学部長 田中 健太郎

6. 退職者からのメッセージ



阿波賀 邦夫 教授
理学専攻（物質・生命化学領域）

名古屋大学での 24 年間を振り返って

私が名古屋大学に赴任したのは、野依良治先生がノーベル賞を受賞された 2001 年です。それから時は流れ、気がつけば 24 年。あっという間でしたが、その一方で、充実した時間を過ごせたことに、深い感慨を覚えます。この間、名大理学の教育研究環境は大きく向上したと思います。建物の新築や改修が進んで世界標準の環境が実現され、また地下鉄の開通により利便性が格段に向上しました。その一方で、名大理学の自由闊達な雰囲気は今も変わることなく息づいており、この精神こそが優れた研究成果を生み出す原動力となっていると感じます。

私自身は、赴任当初から研究費を何とかつなぎ、多くの共同研究者や学生に支えられながら試行錯誤を重ねてきました。最後の 5 年間の特別推進研究では、自らも面白いと感じる成果を上げられたことは望外の喜びでした。教育・運営面では、博士課程リーディング大学院の採択やその高評価は飛び上がるほどの喜びでしたし、コロナ禍の研究科長時代、教職員や学生の皆さんの協力を得られたことには、心から感謝しています。名大で培った経験や人とのつながりは私にとって何ものにも代えがたい財産となり、今後に活かしていきたいと考えています。

最後になりますが、これまでご指導・ご支援くださった先生方、共に切磋琢磨した同僚の皆様、そして多くの刺激を与えてくれた学生たちに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



宇澤 達 教授
多元数理科学研究科

数・対称性・空間・時間・偶然

2002 年 4 月、私は多元数理の教授として着任いたしました。着任早々、21 世紀 COE プログラムの申請を取りまとめる役目を担い、数学分野の研究をいかに分かりやすく説明するかに腐心しました。その際、数学・物理・生物といった学問の違いを、それぞれの「対象」で説明する方法を思いつきました。生物学は「生命」を、数学は「数・対称性・空間・時間・偶然」を対象とする、という説明です。

着任当時、数学教室の博士課程は実質的に機能しておらず、「less is more」とする考え方が強く残っていました。しかし現実的で柔軟な学位授与の基準を設けることで、博士論文の数も質も共に向上するはずだと信じ、「more is better」の立場から制度改革に取り組んできました。外国人の教員を採用したのも COE の隠れた功績だと思います。

名古屋大学の開かれた自由闊達な学風には深い感銘を受けました。文学部の塩村先生、地球物理の渡邊先生、生物の故大澤先生、故近藤先生、故宝谷先生、松本先生、森先生など、多様な分野の優れた研究者たちとの交流は、私の学問的視野を広げる上で何ものにも代えがたい経験でした。このような自由闊達な学問環境の中で過ごせたことを心より感謝いたします。名古屋大学が今後もこの伝統を大切に守り、理学部がますます発展することを願っております。



草野 完也 教授
宇宙地球環境研究所

あらゆる出会いと経験が未来の道を拓く

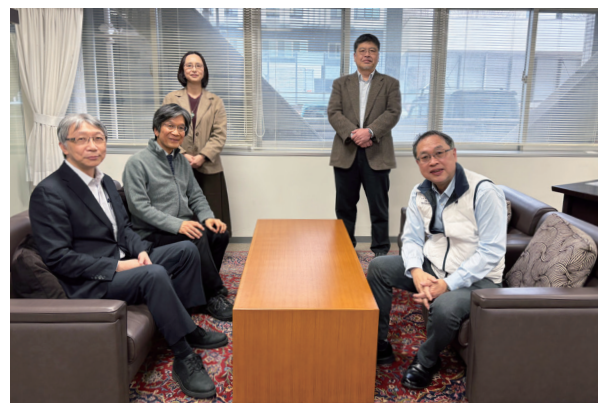
定年退職を迎えて改めて思い返すと北海道大学、広島大学、海洋研究開発機構（JAMSTEC）を経て名古屋大学で過ごした長い研究生活の中で得た全ての経験が、今の自分のなかで活かされていることを実感します。私は天文学、核融合・プラズマ物理学、気象学、地球電磁気学、太陽物理学など様々な分野をさまよい歩いてきました。そのなかで、トーラスプラズマの自己組織化、地磁気反転、雲と降水の精密モデル化、磁気再結合の高速化、太陽黒点周期、太陽フレアの発生予測と宇宙天気・宇宙気候など多くの興味ある問題に取り組むことができました。失敗を繰り返しながらも少しずつ前に進んでこられたことを大変うれしく思います。それは、数多くの共同研究者や協力者、一緒に悩みながら問題に取り組んでくれた学生の皆さんなど、多くの方々との出会いがあったからに他なりません。2009 年に名古屋大学に籍を置くことになってからは、現在の宇宙地球環境研究所と理学研究科のみなさんに大変お世話になりました。複雑な自然の営みを探り理解するためには、多様な視点と柔軟な発想が欠かせません。一人の研究者が担うことができる役割は限られたものですが、様々な分野の交流や連携を可能にする大学の役割はこれからもっと大きなものになることでしょう。その中心として理学研究科が未来につながる新たな道を拓いていかれることを切に望んでいます。

定年退職教授との茶話会 - 研究科長室にて

2024 年度定年退職される 2 人の教授の先生方と理学研究科長・副研究科長の 3 人で、2025 年 3 月 12 日 15 時から 1 時間程度、ケーキを食べながら親しくお話する機会を持ちました。

もともと、この茶話会はコロナ禍のために設けられたものでした。3 月の教授会の後の送別会が復活したいまま、静かにお話を伺うことができる機会も貴重ということで続けてきました。退職される先生方のこれまでの思い出や来年の抱負など、いろいろなことをお聞きすることができました。

今回は前理学研究科長、前宇宙地球環境研究所長のご退職ということで、今年度末で研究科長を退任する自分自身にとっても特別な会であったと思います。(寺崎一郎)



左手前から：阿波賀邦夫 教授、草野完也 教授、上川内あづさ 教授、田中健太郎 教授、寺崎一郎 教授（理学研究科長）

ニュートンのリンゴの木 2025.

理学部 E 館の玄関前に植えられているニュートンのリンゴの木に、赤いリンゴを結実させることを目標に、2018 年から人工授粉に挑戦しています。

昨年は開花中に雨が続き、人工授粉の作業をすることができませんでした。今年はチャンスを逃がさないように準備をし、リンゴの花がたくさん咲いた 4 月中旬、今回も全学技術



いっぱい葉が生い茂っているリンゴの木。手前は記念植樹のプレート。

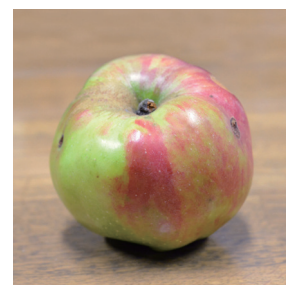
センターの伊藤耕さんから、農学部果樹園に植えられているリンゴの木の花粉をわけていただき、晴れた日に 2 回、授粉作業を行いました。

5 月初旬には小さな実が 15 コ以上も生っていましたが、その半分が大きくなる前に落ちてしまいました。残った実は、6 月には 3cm 程まで大きくなりましたが、実の中に虫が入り、鳥にも突かれ、次々に落果してしまいました。

6 月末に大雨が降り、最後の 1 つとなったリンゴは、形はデコボコで両側に虫食いの傷がありますが、6.5cm まで大きく生長し、8 月に自然落果しました。今後も大切に见守って行きたいと思います。



リンゴの花 (4 月中旬) 受粉に成功して膨らんでいる小さな実 (4 月下旬)



収穫した 6.5cm のリンゴ

講義室シリーズ - 化学 第 3 講義室 (C-219)



講義中の化学 第 3 講義室

化学科には 3 つの講義室があり、主に 3 年生や大学院生の講義で利用されているのが理学部 C 館 2 階にある第 3 講義室です。

2007 年 (平成 19 年)

までは化学科の講義室はすべて理学部 A 館にありましたが、改修工事により第 3 講義室は現在の場所へと移動しました。座席数は 93 席で、収容人数としては化学科の講義室の中で一番多くなっています。2022 年 (令和 4 年) には黒板をホワイトボードに変え、新しくプロジェクター、マイク、モニターを導入し、後ろの座席の聴講者も分かるよう講義環



境を整備しました。また明るくおしゃれな空間をイメージし、床を木目に、壁は白く改装し、椅子もキャスター付きの軽い椅子に取り換えました。これによって、化学科の学生にとってより親しみやすい講義室となっています。

7. 新任紹介



石橋 明浩 教授
(Ishibashi, Akihiro)
理学専攻（物理科学領域）

私は、一般相対論や量子力学を用いて、ブラックホールや宇宙の大域的構造について理論的研究をしています。時間と空間の根源について理解したいと思っています。

名大では学部生として過ごしました。高2の終わりに3年生の親しい先輩が受験されたことで知り、当時の恩師に自由（闊達）な学風がきっと合うだろうと言われて名大に決めたとします。物理学科を卒業後は東京工業大学の大学院に進み、その後、研究員として、京都、ケンブリッジ、シカゴ、つくば、と国内外を転々とした後、幸い近畿大学にテニユア職を得ることができました。この4月から現職に就きましたが、帰ってきた気持ちとともに新天地に來た感があります。

今は1日24時間であることを痛感していますが、学部生のときはそれを忘れて過ごしていた気がします。200歳まで生きるつもりで天下を取りに行く小説の主人公のような気持ちも少しあったかもしれません。当初から物理学の基礎理論、宇宙や一般相対論の研究をしたいと思っていましたが、明確な考えがあったわけでもありませんでした。老眼になった頃の自分から今を振り返るといった視点もなく、見逃したこともあったかもしれません。それでも名大で仲間恵まれたのが大きかったのだと思います。物理や数学を含め多くを友人・先輩・後輩の皆さんとの自主ゼミを通して学ぶことができました。学生時代のこの経験は、今でも大学人としての自分の中に色濃く活きている気がします。ですから何かを学ぶのに良い方法を訊かれたら「仲間を見つけて教え合うのが最良」と答えています。



岩井 一正 教授
(Iwai, Kazumasa)
宇宙地球環境研究所

2025年4月1日付で宇宙地球環境研究所の教授に昇任いたしました。大学院教育では物理科学領域の太陽圏プラズマ物理学研究室を担当いたします。私は2012年3月に東北大学で博士号を取得後、国立天文台野辺山太陽電波観測所、情報通信研究機構、米国国立天文台でのポストドク研究員等を経て、2017年に本学へ准教授として着任しました。本学とのご縁は2011年、東日本大震災により所属研究室が被災した際、当時の太陽地球環境研究所に避難先として受け入れていただいたことに始まります。お世話になった大学で教鞭を執ることに、不思議なご縁を感じます。私の研究は、太陽から吹き出すプラズマの流れ「太陽風」に満たされた宇宙空間を対象としています。太陽風の変動は地球周辺の宇宙環境に影響を及ぼし、情報通信分野を中心に私たちの生活にも関わる重要な現象です。現在の目標は、私が提案している大型計画「次世代太陽風観測装置」の実現です。本計画では、先端技術を搭載した国内最大級の電波望遠鏡を開発し、太陽風観測性能を飛躍的に向上させます。本装置の開発やデータ解析、観測データを用いた宇宙天気予報システムの構築は、研究室の学生の皆さんと一丸となって進めています。宇宙開発や宇宙旅行が身近になる近未来に向けて、独自の太陽風観測に基づく宇宙天気予報を日本から世界へ発信し、大学院教育と社会貢献を進めてまいりたいと思います。

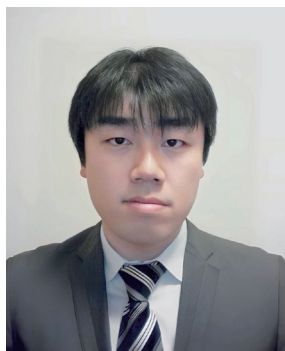


糟谷 久矢 教授
(Kasuya, Hisashi)
多元数理科学専攻

2025年に、多元数理科学研究科教授として着任いたしました糟谷久矢と申します。東京大学大学院数理科学研究科にて学位を取得し、東京工業大学（現東京科学大学）助教、パリ第七大学のフェロー、大阪大学准教授を経て名古屋大学に採用していただくことになりました。

専門は微分幾何学および複素幾何学です。空間の幾何学的構造とその対称性に関する研究を主に行っております。特に近年は非可換ホッジ理論について興味を持って研究を行っております。通常のホッジ理論は空間を可換化した不変量であるコホモロジー上において、元の空間の幾何構造に由来する対称性が得られるというものです。非可換ホッジ理論は通常のホッジ理論を空間の非可換な不変量（特に基本群）上に拡張した理論です。リーマン幾何学と複素代数幾何学の非自明な結びつきである小林-Hitchin 対応を経て、1990年代に構築され、現在でも大きく発展している理論です。現状、非可換ホッジ理論が展開できる空間は限定されていますが、私はより多様な幾何学的対象において非可換ホッジ理論を展開することを目指しています。

名古屋大学では、多元数理科学という独自の研究科体制の中で研究や教育において新しい挑戦ができることを期待しております。名古屋大学の今後の発展に寄与できればと思います。どうぞよろしくお願い致します。



須田 理行 教授
(Suda, Masayuki)
理学専攻 (物質・生命化学領域)

2025 年 4 月 1 日付で名古屋大学大学院理学研究科理学専攻・物質生命化学領域に教授として着任いたしました。これまで、慶應義塾大学大学院で博士号を取得後、理化学研究所、分子科学研究所、京都大学大学院工学研究科にて研究と教育に従事してまいりました。私の専門は固体物性化学で、有機・無機合成化学や電気化学、光化学といった多彩な化学的手法を駆使して、従来にない新しい凝縮系物質の創出に取り組んできました。特に、物質中の"対称性"や"次元性"、"フェルミ準位"といった電子物性を支配するパラメータを意図的に制御し、伝導性、磁性、トポロジカル物性、触媒能などの電子物性を"思うがままに"設計することのできる新しい物性化学の開拓を目指して研究を進めています。

名古屋大学理学専攻は、物理・化学・生命といった多様な分野が一専攻に結集している点に大きな特徴があり、私の研究で目標とする学際的な融合研究に取り組むうえで理想的な環境であると感じています。この恵まれた環境を最大限に活かし、従来の専門領域にとらわれない視点から、物理や生命科学との有機的な連携を通じて新たな物質科学・生命機能の創出に挑戦していきたいと考えています。今後はこの環境で、さまざまな分野の先生方と積極的に交流しながら、共同研究を通じて新しい学理を切り拓いていければと願っています。



谷口 博基 教授
(Taniguchi, Hiroki)
理学専攻 (物理科学領域)

この度、大学院理学研究科理学専攻において教授に昇進いたしました、谷口博基と申します。私は大阪大学理学部物理系学科を卒業した後、九州大学理学府修士課程、北海道大学大学院理学研究科博士後期課程、東京工業大学（現東京科学大学）助教を経て 2013 年に名古屋大学に准教授として着任し、それ以来現在の所属に在籍しています。

私は、「誘電体」と呼ばれる物質系に着目して分極現象の研究に取り組んでいます。分極現象とは、物質中で正と負の電荷が互いに逆方向に変位する現象です。電場を加えた場合に生じることもあれば、圧力や磁場などを加えた場合に生じることもあります。何の外場も加えていないのに、自発的に生じることもあります。この分極現象を上手に利用すると、コンデンサや不揮発性メモリ、超音波センサなど、実に多彩なデバイス素子を作ることが出来ます。分極現象の研究の歴史は比較的浅く、今でも広大な未踏の荒野が広がっている分野です。私は、物性物理学を軸として、時に固体化学や材料工学を援用しながら、誘電体におけるユニークな分極現象の探索と機構解明を日々進めています。

趣味はラグビーです。高校から現在に至るまでの 33 年間、ほぼブランクなしにプレーを続けてきました。今年度より、名古屋大学ラグビー部の部長兼監督にも着任いたしました。今後も、学問とスポーツの双方から、学生諸君の青春を精一杯サポートしていきたいと思います。



平野 恭弘 教授
(Hirano, Yasuhiro)
環境学研究科・地球環境科学専攻

2025 年 1 月 1 日付けで教授に昇進いたしました。私は名古屋大学生命農学研究科で学位を取得後、森林総合研究所、スイス連邦森林・雪・景観研究所を経て、名古屋大学環境学研究科・理学部担当教員として従事してまいりました。専門は「森の根の生態学」で、人が関わる人工林や里山、海岸林などを対象に、普段見ることのできない地下部の根を、炭素循環や減災の観点から研究しています。

近年、森林には脱炭素社会への貢献が期待されています。その期待に応えるためには、人が関わる森林の炭素循環を理解した上で森林からの恩恵を受けることが大切になってきます。しかし森の根がどこにどれくらい炭素を蓄え成長しているか？についてさえ未知な点が数多く残されています。私は森に毎月通い根を観察し、毎年一本の木の根を丸ごと掘り起こし、また土を掘らずに地中レーダを用いて根の存在を推定する、すなわち根の見える化にも取り組んでいます。根系だけでなく地球における様々なシステムを理解する視点をもつことで、名古屋大学で創案された「臨床環境学」、フィールドにある問題を自治体や地域の皆さんと協働で持続性の観点から解決策を見出す試みも、博士後期課程の学生の皆さんと取り組んでいます。

今後も様々なスケールメリットを発揮できる名古屋大学の強みを活かした教育・研究活動に貢献していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



ニール・ベズ 教授
(Bez, Neal)
多元数理科学専攻

2024 年 10 月 1 日より名古屋大学大学院多元数理科学研究科の教授職に着任しました。私はイギリスのレスターで生まれ育ちました。オックスフォード大学（修士）とエディンバラ大学（博士）を卒業しました。名古屋大学に着任する前は、グラスゴー大学、バーミンガム大学、埼玉大学で職を務めていました。

エディンバラ大学での研究中に調和解析の分野に出会い、それ以来この分野が私の研究の中心となっています。調和解析はフーリエ級数やフーリエ変換に起源を持ち、現在私はフーリエ制限予想およびそれに関連する問題に関心を持っています。例えば掛谷予想のような幾何学的問題など、さまざまな数学の分野との繋がりに興味があり、今後もこのような問題の研究を続けていきたいと考えています。

2014 年に日本に移住してきました。私の人生を変えるものでした。イギリスに帰るたびに、この 10 年間に私にどれほど影響を与えたかを実感します。特に私の味覚は大きく変わりました。日本には多くの上品で洗練された料理があるにもかかわらず、イギリスに戻ったときに一番恋しくなるのは納豆と緑茶です。イギリスから日本に帰ってきたときに、恋しくなるイギリスの食材があまりない、ということに気が付くと私は日本の文化に溶け込んでいるのだな、と感じております。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



八木 亜樹子 教授
(Yagi, Akiko)
理学専攻（物質・生命化学領域）

2025 年 5 月 1 日付で理学研究科理学専攻物質・生命化学領域に教授として着任いたしました。本学の理学部化学科を 2011 年 3 月に卒業し、同大学院理学研究科物質理学専攻（化学系）有機化学研究室で 2016 年 3 月に学位を取得しました。その後 1 年間、米国カリフォルニア州にあるスクリプス研究所で博士研究員（日本学術振興会海外特別研究員）を勤めたのちに本学の物質科学国際研究センターで助教に着任しました。トランスフォーマティブ生命分子研究所の特任准教授を経て現在に至ります。名古屋市立向陽高等学校の出身で、履歴書には名古屋の文字ばかりです。

私の専門は有機化学、中でも分子合成化学です。分子は、生命体から電子材料まで多くの物質にとって重要な構成要素です。分子を自在に合成する技術は未来の物質科学でも活躍することは疑いありません。優れた機能が期待される一方で、未だ合成することが困難な分子群があります。私たちはそういった分子群の合成法を開発し、未知の機能性分子を創製する研究を行っています。また、合成した新分子のユニークな機能開拓を通じて広範な研究領域との新たな接点を創りたいと思っています。"Design beyond Molecules" を研究理念に掲げ、仲間の飛躍とサイエンスの発展に寄与するべく全力を尽くす所存です。



柳田 伸太郎 教授
(Yanagida, Shintaro)
多元数理科学専攻

2025 年 4 月 1 日付けで多元数理科学研究科の教授に昇任いたしました。私は神戸大学で博士を取得したのち、京都大学数理解析研究所で助教を務め、2016 年に多元数理科学研究科の准教授として着任いたしました。今年度が名古屋大学に所属して 10 年目になります。

専門は「表現論」という数学の分野で、大雑把にいうと「対称性を記述する数学」の研究を行っています。対称性という言葉は日常でも時折でてくるもので、我々は点対称・線対称・面对称といった「図形の対称性」を中学校の数学で学びます。現代数学で扱う対称性はもっと多様性のあるもので、例えば「方程式の解の対称性」や「高次元の図形の対称性」といった高校までの数学の延長上にあるものや、「無限次元空間の対称性」や「量子変形された対称性」といった最先端の数学に現れるものもあります。私自身の研究の興味は、代数的モジュライ理論と関連した代数的表現論および場の量子論と関連した表現論にあります。

現代数学は大変抽象的で難しい学問であるといえますが、ちょっとした発見や観察でも大きな価値が認められ得るという意味で、非常に多くのチャンスがある学問でもあります。

これまで以上に学生と一緒に研究できることを楽しみにしています。そして教育・研究をとおして、名古屋大学の発展に尽力していきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

8. 事務局からの連絡とお願い

1) 寄付のお願い

日頃、理学同窓会の運営にご協力いただき心より感謝申し上げます。理学同窓会は皆様からの温かいご支援で、運営が成り立っております。理学同窓会を支えて下さる方々を理学支援会員として同窓会報にお名前を掲載させていただきたいと考えています。ご協力いただける場合は、同封の振込用紙で、一口（1,000 円）の支援をお送り頂けると幸いです。

【郵便局】口座番号：00800-5-77637、加入者名：名古屋大学理学部理学系研究科同窓会事務局

【銀行振込】三菱 UFJ 銀行 八事支店、口座名：名古屋大学理学同窓会、口座番号：普通 0003160 *インターネット振込もご利用いただけます。

* お振込が完了しましたら電子メールで、お名前、卒業年等を理学同窓会事務局までお知らせください。

【銀行振替】年に一回、毎年 10 月の自動引き落としもご利用いただけます。

* 詳しくは、理学同窓会のホームページでご案内しておりますのでご覧ください。

2) 投稿のお願い

同窓会報は年 1 回の発行で、クラス会など皆様からの投稿をお待ちしております。Email または、理学同窓会事務局までお送りください。

名古屋大学理学部・理学系研究科同窓会事務局

〒 464-8602 名古屋市千種区不老町 名古屋大学理学部内

E-mail : faq@dousou.sci.nagoya-u.ac.jp

理学部・理学系研究科同窓会ホームページ▶

<https://www.dousou.sci.nagoya-u.ac.jp/>

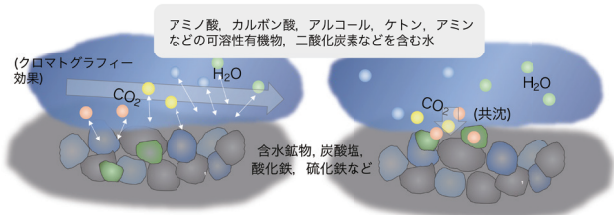


9. scope...

リュウグウ試料の分析から見えてきた、 小惑星における「有機物－水－鉱物の相互作用」

はやぶさ 2 が持ち帰った小惑星リュウグウの試料からは、多様な「有機物」が見つかっています。私たちはその中でも、水やメタノールに溶けやすい「可溶性有機物（SOM）」に注目しました。そして、SOM の空間分布を調べるため、脱離エレクトロスプレーイオン化という技術とイメージング質量分析を組み合わせた手法を用い、約 1 mm のリュウグウ試料を詳細に分析しました。さらに電子顕微鏡で鉱物の分布と比較したところ、SOM の分布は化学組成によって異なり、水による変質で生じる鉱物（炭酸塩や酸化鉄など）が多い領域には酸素を含む有機物が、少ない領域には窒素を含む有機物が多い傾向がありました。これは、リュウグウ母天体（元の天体）における有機物－水－鉱物の「相互作用」（クロマトグラフィー効果や、炭酸塩が形成する際の共沈など）により、SOM が分離されたことを示しています。さらに、地球に落ちてきた隕石とは異なる特徴も見られたことから、小惑星リュウグウ表面において、宇宙線や紫外線によって SOM が変質された可能性も示唆されました。このように、SOM の空間分布や鉱物との関係を明らかにすることで、リュウグウ母天体での水の活動や有機物の進化過程を探る手がかりが得られたと考えています。（橋口未奈子）

小惑星リュウグウ母天体での有機物-水-鉱物の相互作用



- [1] Z. Takáts et al. (2004) *Science*, 306, 471.
- [2] H. Naraoka et al. (2023) *Science* 379, abn9033.
- [3] M. Hashiguchi et al. (2023) *Earth, Planets and Space*, 75, 73.

住所変更をお知らせください
(切手不要です)

✂ キリトリ線

料金受取人払郵便

4 6 4-8 7 9 0



差出有効期間
令和9年12月
25日まで

✂ キリトリ線

名古屋市千種区不老町
名古屋大学理学部内

名古屋大学理学部・理学系研究科
同窓会事務局 宛



✂ キリトリ線

10. 楽しく、厳しく、ハードに勉強する学生諸君



令和 7 年 3 月 25 日 学位授与式（物理学科）



学位授与式（物理・大学院）

✂ キリトリ線

連絡先変更カード

連絡先内容に変更がある場合、必要事項をご記入の上お送りください。
お送りいただいたデータは、同窓会関係の連絡のみに使用し、許可なく
他の目的に流用することはいたしません。

変更事項に○をつけてください。 年 月 日

卒業年 (西暦)	年 年 年	学科 専攻 専攻
旧職員		
(フリガナ) 氏 名	(フリガナ) 旧 姓	
新しい 連絡先	□□□□-□□□□	
	TEL	
	E-mail	
通信欄		

✂ キリトリ線



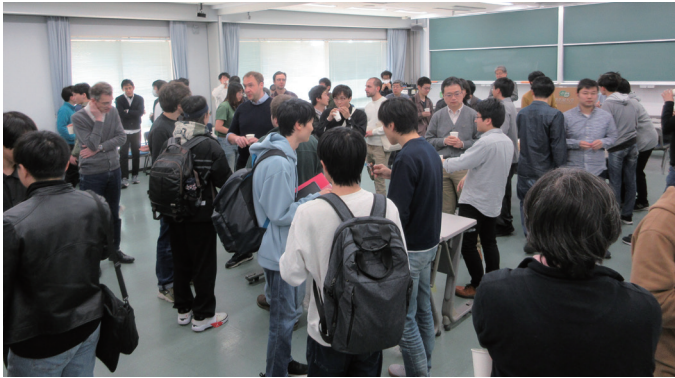
学位授与式（B4 学生）（化学科）



学位授与式（M2 学生）（化学科）



学位授与式（数理学科）



新入生歓迎会（数理学科）

← 住所変更をお知らせください
(切手不要です)



ソフトボール大会（生命理学科）



学位授与式（地球惑星科学科）



地質学実験で微化石を顕微鏡観察する学部2年生（地球惑星科学科）



実習生を乗せて菅島に帰るフロンティア号（臨海実験所）

11. 会計報告

1) 2024 年度決算報告

○収入の部	
寄付収入	719,000
支援会員	244,112
銀行利息	1,600

計 964,712 円
前年度よりの繰越金 3,914,800 円

○支出の部

会報印刷費（37 号）	323,400
会報郵送費	178,545
雑費	248,313
イベント開催費	195,292
人件費（ウェブページ保守）	82,332
同窓会サーバ利用料（年額）	60,000
Zoom 費用（1 年分）	23,375
通信費	19,084

計 1,130,341 円
次年度繰越金 3,749,171 円

2) 2025 年度予算

○収入の部	
寄付収入	850,000
支援会員	250,000

計 1,100,000 円
前年度よりの繰越金 3,749,171 円

○支出の部

会報印刷費（38 号）	330,000
会報郵送費	230,000
雑費	180,000
イベント開催費	200,000
人件費（ウェブページ保守）	60,000
同窓会サーバ利用料（年額）	60,000
通信費	20,000
Zoom 費用（年額）更新	23,375

計 1,103,375 円
次年度繰越金 3,745,796 円

12. 編集後記

初めて同窓会報の編集に携わりました。春に全体方針を決めて、コツコツと記事を集め、ようやく出来上がった会報 38 号です。ぜひお楽しみください。ホームカミングディでの懇親会も復活していますので、お気軽にお越しください。会報へのご寄稿も大歓迎です（AK）。

ご縁があって母校である名古屋大学に戻り、今年度より同窓会報の編集委員を拝命いたしました。委員としての活動を始めてから、学部・学科の取り組みや、各方面で活躍されている同窓生の皆様のお姿に、これまで以上に目を向けるようになりました。今後も理学部の「今」を皆様にお伝えする一助となれるよう努めてまいります（YM）。



名古屋大学理学部・理学系研究科同窓会

〒464-8602 名古屋市千種区不老町

名古屋大学理学部内

TEL 052-789-5564



<https://www.dousou.sci.nagoya-u.ac.jp/>

2025年11月14日撮影